

令和元年度
まちづくり活動
アシスト事業報告

暮らしの文化にまなざしを、暮らしに文化の彩りを
（私設図書室ピクチャーブックライブラリーくらら
を交流拠点にして）

クラシカルみつはま

川瀬 久美子



暮らし十カルチャーIIクラシカル

「クラシカルみつはま」という団体名は、古い（IIクラシカルな）建物が多く残る松山市の三津浜で活動するという意味と、「暮らし」と「文化（カルチャー）」の融合という意味を兼ねてつけました。暮らしの文化にまなざしを、暮らしに文化の彩りを。これをモットーにして、日本の伝統的な暮らしの文化、例えば在来工法の建物や食器、家事道具、年中行事などを見直す取り組みと、日々の暮らしの中で音楽・文学・絵画などの文化的活動ができる仕掛けづくりを、団体の活動内容としています。

古い蔵を残して生かす

第二次世界大戦でも空襲を免れた三津浜には、江戸時代、明治・大正時代に建てられた民家や蔵が残っています。しかし、空き家と



修繕された蔵(奥)と伝統工法の新築建物(前)

なつて朽ち果てた末に、撤去される建物が増えてきました。施設図書館くららは、解体の話が出ていた築一〇年の蔵を修繕して活用する方法を模索した末、地域の交流拠点として創られました。図書館開設に向けて川瀬が有志を募って平成三十一年四月に団体を立ち上げ、くららの開館までには図書の収集整理や施設整備を、開館してからは団体のメンバーが交代でくららの図書当番とイベントの企画運営をしています。

日々の暮らしに絵本や漫画を

くらはは、絵本・漫画・写真集・美術書など、活字の多い本の図書館として令和元年十二月にオープンしました。倒れそうだった蔵が修繕されて、近隣の方々には「見違えるくらい



落ち着いた雰囲気蔵のなか

綺麗になったね！」と喜ばれました。来場者には「この蔵の中、すごく落ち着くわ」と評判は上々です。とはいえ、まだまだ存在を広く知られていないので、認知度アップが最大の課題です。一月に実施した漫画ビデオバトルは参加者こそ少なかつたものの、「これからも開催してほしい」と大好評でした。また、三津浜には県内外の若いアーティストが壁画を描いている場所や、店内に素敵な絵本や絵画がある店舗がいくつもあるのです。絵と本を巡るまちあるきを計画しています。これからもくららを拠点として、三津浜に残る生活文化に多くのまなざしを向けてもらい、日々の暮らしに文化の彩りが添えられるような活動を行っていきます。



くららオープン初日の伊予弁紙芝居の上演